

第174回国際高官セミナーの感想

府中刑務所国際対策室

首席矯正処遇官 石原 淳一 (Julian)

令和2年1月16日から2月14日までの間、国連アジア極東犯罪防止研修所(UNA FE I)第174回国際高官セミナーに参加しました。その前後も含めて、セミナーに参加した感想を率直に書き記します。

1 セミナー参加前

令和元年9月下旬だったと思います。UNA FE Iから、矯正局を通じて、「刑事司法の各段階を通じた再犯防止及び円滑な社会復帰のための諸方策：政策とグッドプラクティス」について研究・討議するという本セミナーの国内参加者の募集がありました。

10年以上前ですが米国内の大学院への留学経験もあり、海外からの参加者と研究・討議することには関心があったため、回覧された「募集要綱」をじっくり読んだことを記憶しています。しかし、教育や分類など再犯防止や社会復帰に直結する部署で勤務した経験もなかったことから、手を挙げませんでした。

しかし、その後矯正局から、参加してみないかと声がかかったのです。おそらく、矯正施設の職員が遠慮深く、誰も立候補しなかったためでしょう。そのようなわけで、急にセミナー参加に向けた作業が始まりました。通常業務と並行して、個人発表のための論文・プレゼンの作成は容易ではありませんでしたが、学生に戻ったかのような楽しいひと時でした。

2 セミナー参加中 (平日編)

(1) 個人発表

セミナー開始早々、参加者の一人一人が、参加者ばかりか、UNA FE Iの所長、次長、教官方の前で、セミナーの主要課題に沿った発表を英語で行います。私は、過去に勤務した官民協働の刑務所である島根あさひ社会復帰促進センターにおける再犯防止施策について発表しました。

国内参加者は早々に個人発表が終わることもあって、リラックスした状態

で他の参加者の発表を熱心に聞くことができました。特に海外参加者は、耳を疑うような内容を話すこともあり、どれも興味深く、新鮮でした。例えば、刑務所において受刑者が違法薬物にアクセスできたり、収容定員を10倍近く超えた刑務所が存在したりという内容です。我が国の制度・運用との大きな違いに驚きながらも、先入観を持たずに真摯に発表内容を理解しようと努めました。

この個人発表の段階で、参加者の話す「英語」がバラエティに富んでいることが分かりました。ネイティブに近いクリアな発音で話される方から「本当に英語を話しているのか？」という方までさまざまで、「訛りがあっても問題ない。堂々と話せばいいのだ。」と良い意味で自信につながりました。

(2) 講義

UNAFEI 教官や行政機関の職員による我が国における再犯防止の取組等についての講義もありましたが、私にとって刺激的だったのは、海外の専門家による講義でした。具体的には、クロアチアの Jana 氏からは、同国における保護観察制度の構築について、シンガポールの Matthew 氏からは、同国における犯罪者処遇及び再犯防止のための国民参加に係る取組について、タイ法務研究所の Joutsen 博士からは、世界各国の刑事司法の運用の違い及び再犯防止のために実務家が留意すべき事項について、それぞれ講義を受けることができました。

また、これらの講師の方々には、参加者と同じ宿泊棟で数日間滞在されたことから、食事の機会等に、講義の場では聞けない率直な話を伺うことができたことも貴重な経験となりました。

(3) 見学

最高裁判所、法務本省、広島刑務所、京都保護観察所、更生保護施設盟親等を見学・表敬する機会もありました。特に、法務省では、森まさこ法務大臣に表敬する機会をいただき、握手までしていただきました。現在の職務上、外国の領事官等に府中刑務所を案内する機会もありますが、広島刑務所では、これまでに聞いたことのない感想・質問が海外参加者から多数あり、外交官とは違う実務家としての着眼点に驚かされました。

さらに、保護司さんのお宅を訪問するという機会もいただきました。そもそも「保護観察」という制度がない国もある中、保護観察官とボランティアの保護司が協力して社会内処遇に当たっているのは世界的にも珍しいようです。保護司の活動について、どの海外参加者も興味津々の様子でした。さらに、伝統的な日本人の家庭にお邪魔するというのは、海外参加者にとって極めて貴重な経験となります。保護司さんとその御家族からの温かいおもてなしに改めて感謝申し上げます。

また、広島において、被爆経験者から体験談をお聞きする機会にも恵まれました。直接英語で説明されたこともあり、多くの参加者が涙ながらに聞いていたことがとても印象に残っています。海外参加者同士で「やっぱり、通訳を通さない方が心に染みる。多くの日本人が、この被爆経験者のように直接、自分の英語で話してほしい。」という趣旨の話をしているのを耳にしました。私自身も、自分の考えを自分なりに英語で伝えられるよう研鑽に努めていく意思を新たにしました。

(4) グループ・ワーク

セミナーの中でも多くの時間を割いたのはグループ・ワークです。参加者23名を7、8名ずつの3グループに編成し、各グループがあらかじめ指定されたテーマの範囲で、自由に議論し、その成果を論文にまとめるというものです。役割分担も参加者同士で決めるのですが、「教官とも綿密に意思疎通



ができる日本人がやった方がいいよ。」という他の参加者の巧みな誘導により、私が議長（司会）を引き受けることになりました。

議論等する時間は20時間近くあったのですが、論文にまとめる段階で細かい意見の相違がありました。後半はかなりバタバタしましたが、提出期限10分前までに何とか成果物を提出できたのが良い思い出となりました。

私が属したグループ2は、再犯防止及び円滑な社会復帰のための犯罪者処

遇というかなり広いテーマについて議論しました。参加者の出身国も日本のほか、インドネシア、タイ、ドミニカ共和国、マラウイ、マレーシアと幅広く、それぞれの職務も警察官、裁判官その他裁判所職員、刑務官、カウンセラー等が混在する中で、一定の結論を導けたのは良い経験となりました。

3 セミナー参加中（夜間・休日編）

上述のとおり、大変充実したセミナーでしたが、それと同様に、ひょっとしたらそれ以上に充実していたのが、自由時間での活動です。参加者が自由に集い、日本酒等を飲みながら、語り合うことができる環境のおかげで、時には未明まで参加者同士の親交を深めることができました(といっても夜に弱い私は、早々に自室に引き上げていました。「夜の部」を引き受けてくれた国内参加者に感謝します。)

セミナーでは全参加者がニックネームで呼び合います。私は、「Julian」だったのですが、セミナー期間を通じ、「My Japanese brother」と呼ばれたり、理由は省略しますが「Moe Moe」又は「Kyun」となったり、セミナーが終了した今では「Japanese Ambassador」の称号(?)をいただきました。私だけでなく、それぞれの個性が明らかになるにつれ、「God」「Mori-town Master」等の称号を持つ参加者が増えていきました。

(1) 都内観光ツアー

海外参加者とともに、銀座、新宿、上野、渋谷・明治神宮、浅草寺、秋葉原等に行きました。どの場所も楽しんでもらいましたが、渋谷のハチ公像とスクランブル交差点は、海外でも知名度が高いようで、参加者が必死に写真を撮っている姿が印象的でした。



(2) 居酒屋体験（複数）

普通の居酒屋に行くツアーを計画しました。「居酒屋」に相当する飲食店が

ない国が多いようで、日本文化の体験の一環として、「飲み放題」も含めて体験してもらいました。納豆，ウニや馬刺しに初挑戦する参加者の生き生きとした表情は一生の思い出です。

(3) たこやきパーティー

私の思い付きで、近所の飲食店でたこやきパーティーを実施しました。たこやき未経験の国内参加者も含め、初めてのたこやき作りを楽しんでいただきました。日本の「たこパ」を世界に広めることに少しだけ貢献しました。

(4) 富士山ツアー



「冬なので、五合目まで行けないし。」と富士山ツアーを企画することを躊躇していたところ、海外参加者から「富士山に行きたい。」と懇願され、急遽、河口湖弾丸ツアーを企画しました。

レンタカーを使用したため、行き・帰りの車中では、歌ったり、笑ったりと想像を絶する盛り上がりでした。また、現地では、雄大な富士山の姿に興奮するのは当然として、積もった雪にも大興奮で、子供のように大はしゃぎで雪投げをしていました。

(5) お茶体験

私は全くの素人ですが、お茶に詳しい国内参加者の尽力により、海外参加者にお茶体験をしてもらいました。



(6) サプライズ・パーティー

実は、セミナー期間中に誕生日を迎えました。当日は、日曜日だったので、朝から一旦自宅に帰り、午前中のうちにUNAFEIに戻って、昼食後に他の参加者とともに上野公園ツアーに行く予定でした。自宅に帰るため、スーツケースを携えて朝食に行くと、顔を合わせる全ての参加者から「Julian, 今日はどこに行くんだ?」「何時に帰ってくるんだ?」と質問されました。その

時は何もありませんでしたが、私以外の全参加者が私に内緒で誕生パーティーをランチタイムに開催する計画を立ててくれていたのです。参加者の皆さん、冷や冷やさせてごめんなさい。

(7) その他

「何でもやってみたい。」とどん欲な姿勢の海外参加者が多く、熱烈なリクエストに応じて、人生で初めてメイドカフェにも行き、メイドさんから飲み物がおいしくなる呪文を教わりました。その結果、以降、いろいろな場所でその呪文（おいしくな〜れ♪・・・）を唱えることになりました…。しかも、とびきりかわいいジェスチャー付きです。あちこちで周りのお客さんに苦笑されました。

(8) 感想

ここまで読むと、遊びすぎではないかとおつこみが入りそうですが、一緒に遊んでばかりいたわけではありません。神社とお寺の違い、日本人の宗教観等の定番の質問だけではなく、ラテン系参加者の「なぜ日本のカップルは手をつながないのか。それが低出生率の要因ではないのか。」等思いもよらない素朴な疑問に対し、「日本人の代表」として自分なりの回答をしました。広島平和記念公園を見学した後には「原爆を投下した米国に対しどのような感情を抱いているのか。」「原爆投下は国際法違反であると思うか。」「(先の大戦の文脈の中で) 中国に対してどのような感情を抱いているのか。」等の極めて回答が難しい質問もありました。これらのやりとりを通じて、海外参加者なりの日本観・日本人像が醸成されたことと思います。

また、7名の国内参加者がチームワーク良く、自らの得意分野を中心に積極的に貢献したため、大きな負担感もなく、海外参加者とともにセミナー生活をエンジョイすることができたと思います。@sushiさん、Yoshiさん、Mattiさん、Miyaさん、Mitsuyoさん、Kyokoさん、ありがとうございました。

2月14日、国内参加者は、UNAFEIスタッフの皆さんとともに、海外参加者をお見送りしました。涙を流しながら日本人と抱擁する多くの海外参加者の姿を見て、セミナーに参加して良かったと心から思いました。海外参加者はUNAFEIを出発した後、東京都内のJICAセンターで1泊し

て翌日に出国します。私が都内在住であることを知っている海外参加者からは、大粒の涙を流しながら「See you this evening」と言われ、結局、JICAセンターで日本での最後の時間を一緒に過ごすことになりました。

4 セミナー参加後

セミナー中から、参加者はSNSをコミュニケーションツールとして大いに活用していました。現在、セミナーが終わって1週間が経ちますが、今でも毎日、近況報告等が数十件のレベルで飛び交っています。お互い離れて生活していますが、今後とも末永いお付き合いをしていきたいと思っています。

最後になりましたが、素晴らしい機会を提供してくれたUNAFEI関係者の皆様、一生の思い出をくれた参加者の皆様、快く送り出してくれた府中刑務所の皆様に御礼を申し上げます。

